



マラソン・駅伝大会向け 計測ソリューション 「Race Timebox」のご提案

～機材手配からライブ配信、結果確定までをワンストップで最適化～



TABLE OF CONTENT

- | | |
|-----------|-------------------|
| 01 | はじめに |
| 02 | RACE TIMEBOX 3つの柱 |
| 03 | 現場で選ばれる「信頼」のスペック |
| 04 | 各種レースをクラウド管理 |
| 05 | 大会当日の運用フロー |
| 06 | 案件に合わせた3つの導入モデル |
| 07 | 対応可能なイベント規模 |
| 08 | 設置図面 |
| 09 | 一般個人レースイメージ |
| 10 | 周回りイメージ |
| 11 | リレーイメージ |
| 12 | Q & A |

01 はじめに

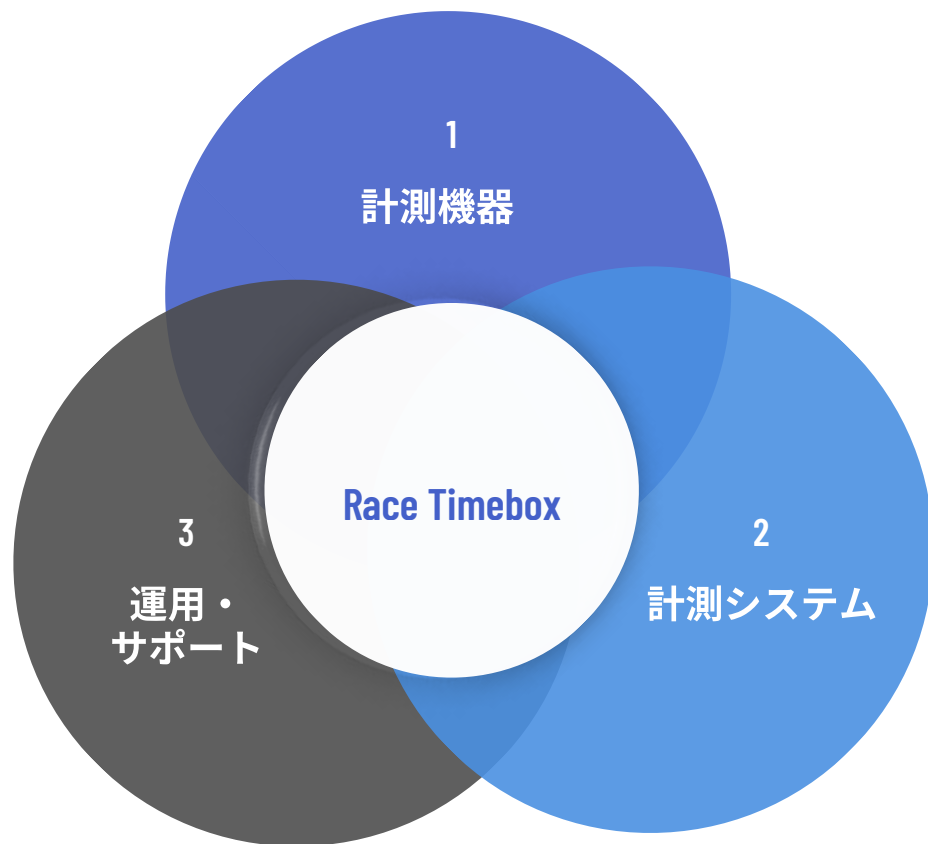
Race Timeboxは、大会運営における計測の正確性と情報公開のスピードを両立し、イベント会社様の運営サービス価値を最大化することを目的としたソリューションです。

「日本陸連認可の計測機器」と「即時集計クラウドシステム」をセットでご提供することで、複雑な競技ルールの案件にも柔軟に対応します。



02 RACE TIMEBOX 3つの柱

計測に必要なすべての要素を一体提供し、貴社の運営をバックアップします。



1 計測機器

- 本体、防水マット、RFIDタグ、ケーブル
- デュアル周波数RFID
- 日本陸連認可
- 計測精度0.1秒
- タグ認識率99.9%以上

2 計測システム

- クラウド集計、ライブ結果、完走証PDF、API連携
- データの即時反映により、速報・ランキング作成の負荷を大幅軽減

3 運用・サポート

- リハーサル、遠隔監視、予備機材
- 現場の判断負荷を減らし、異常時にも迅速な支援体制を構築

03 現場で選ばれる「信頼」のスペック

屋外環境や、ランナーが密集する大規模大会でも安定した計測を実現します。

計測機器本体

407×342×133mm / 5.9kg
RJ45・WiFi・4G
6時間以上連続動作



搬性が高く、現場設置しやすい。有線/無線通信に対応

スターターピストル同期、IP65（筐体閉時）
タグ認識率99.9%以上、計測精度0.1秒、欠測データ率0.01%未満

アンテナ・マット

3m×1.2m
125kHz + 6.78/8.9/13.56MHz
同時読取 200タグ



スタート、フィニッシュ、中間関門に展開しやすい
団子状態でも安定運用を訴求

雨天連続作業可、IP65

RFIDタグ

52×41×2mm
パッシブ / 再利用可能



使い捨て型より運用コストを抑えやすい
継続利用や回収型運用に向く

シューズ装着型

計測システム

クラウド管理
インターネット接続

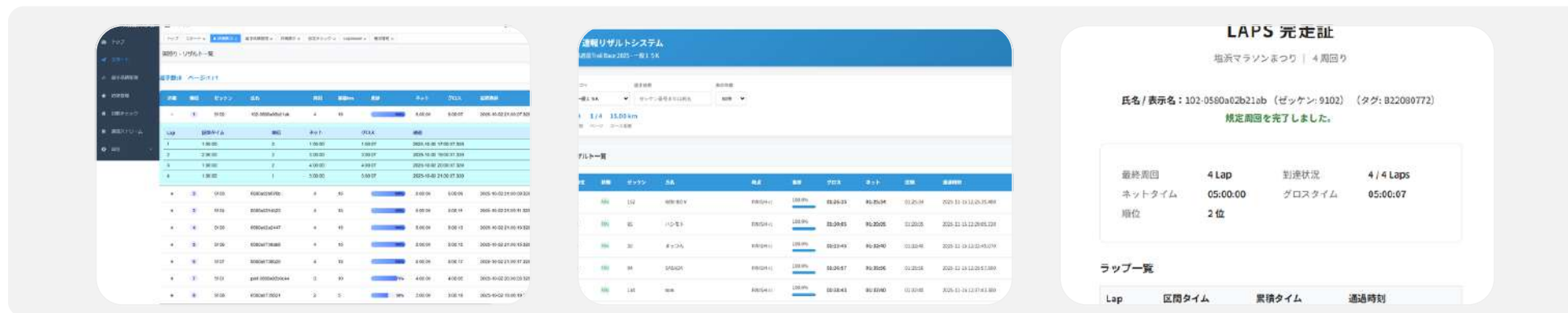


ライブ結果、完走証PDF、API連携

04 各種レースをクラウド管理

クラウド上でレース単位に現場の状況をリアルタイムに集約し、異常時はアラートでお知らせします。

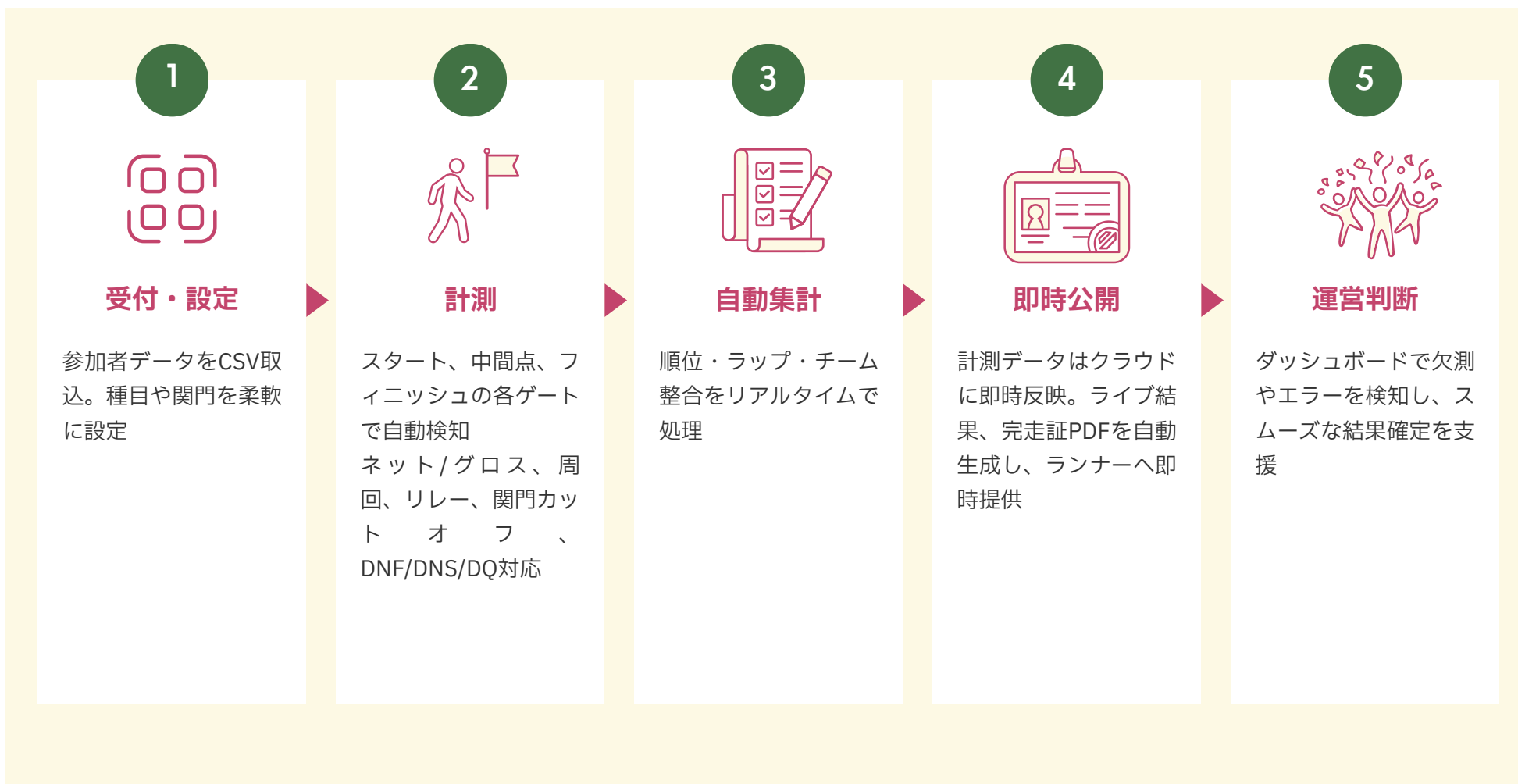
運営本部を『監視』から『正しい判断』へと導く、スマートな管理コンソールです。



No.	カテゴリ	主な機能	状況
01	運営画面	種目・関門設定、CSV取込、リアルタイムログビュー、エラー/欠測アラート	現場本部で進行確認し、異常時のみ判断を入れる運営へ寄せられる
02	公開画面	ライブ結果、ランキング、スマホ対応速報ページ、SNS共有	主催者向けの見栄えある速報ページを短期間で提供しやすい
03	出力	PDF完走証、表彰用リスト、CSV/Excelエクスポート	表彰運営、事後報告、公式記録配布まで一気通貫
04	競技ロジック	ネット/グロス、ラップ/周回、リレー、関門カットオフ、DNF/DNS/DQ	多様な案件条件に合わせてルール設定できる

05 大会当日の運用フロー

設定から結果確定まで、クラウドを活用したシームレスな運用を提供します。



06 案件に合わせた3つの導入モデル

貴社の体制やニーズに合わせて、最適なモデルをご提案します。

01

機材レンタル型

既存オペレーションを維持しながら機材を補完したい

計測経験のある会社
機材一式 + クラウドシステム
+ 遠隔支援

02

共同運営型

新規案件や大型案件を安全に立ち上げたい

計測要員が不足する会社
機材一式 + クラウドシステム
+ 当日支援

03

自社ブランド提案型

自社のイベントサービスメニューを広げたい

再販/OEMを視野に入れる会社
機材・システムを組み込んだ共同提案

すべての導入モデルで、競技運営を支える機材一式、クラウドシステムをご利用いただけます。
計測データや参加者情報を一元管理し、リアルタイムでの状況把握を実現。
運営体制に応じた柔軟な活用が可能です。

07 対応可能なイベント規模

小規模な記録会から、最大3,000名規模の多関門大会まで段階的なプランをご用意しています。

01

小規模レース

学内記録会・地域イベント（短納期・シンプル構成）
初回案件でも手離れよく運営できます。

02

中規模レース

市民マラソン・企業対抗駅伝（2ゲート、関門設定、CSV連携）
運営会社としての品質を保ちながら拡張できます。

03

大規模レース

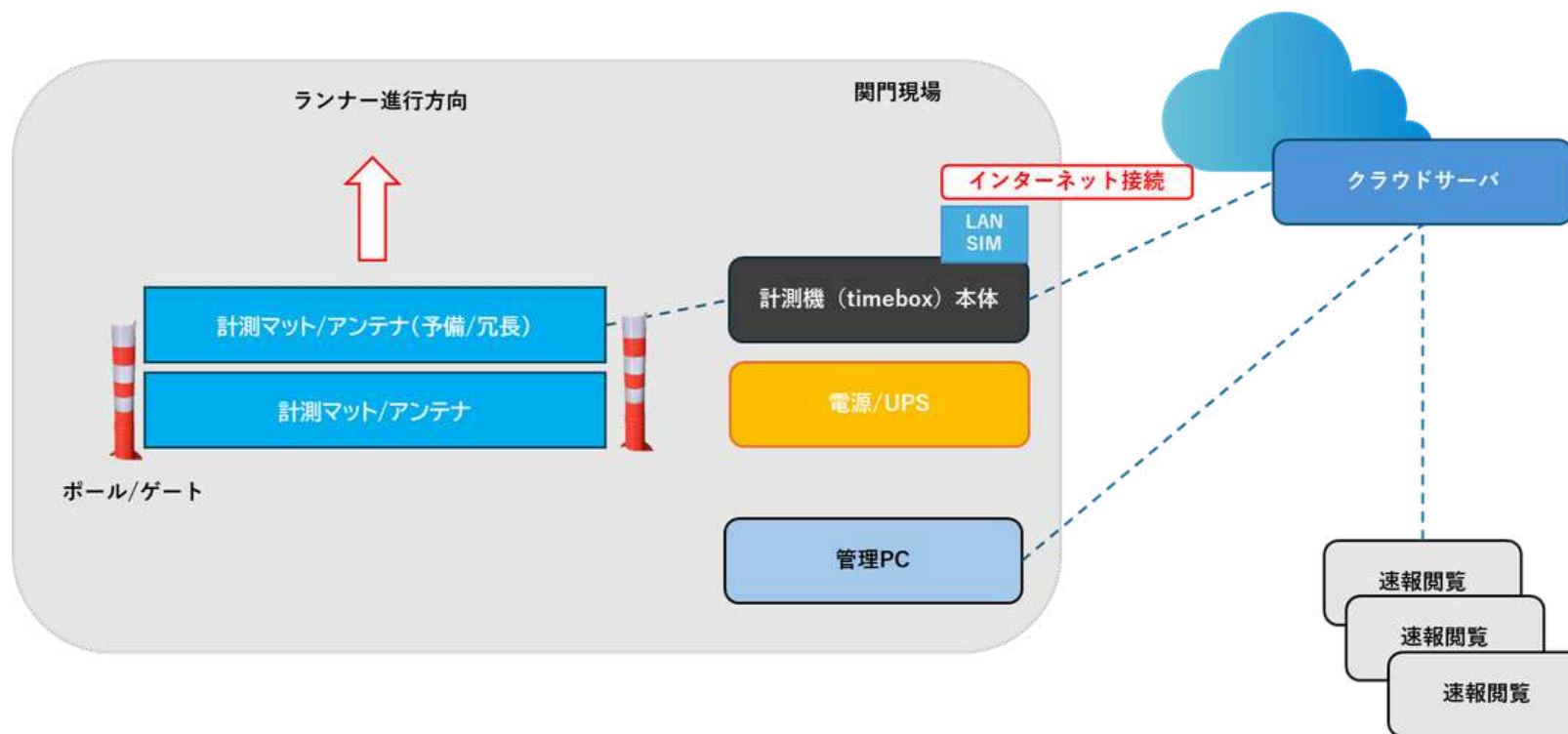
周回リレー・多関門大会（多ゲート、表彰リスト、現地支援）
複雑な競技ルールでもシステムで整合できます。



08 設置図面

本図は、計測機器の設置における基本構成と注意点を示しています。

正確な計測を行うためには、機材の配置や配線、電源・通信環境の確保に加え、安全面への配慮が重要となります。事前の動作確認や適切な設置を行うことで、安定した計測と安全な大会運営を実現します。



- ・計測マット/アンテナ: 走路中央に配置し、皺・浮き・段差がないこと。
- ・リーダー: マットからのケーブルに張力がかからない位置に防水・防塵を確保。
- ・電源: 可能ならUPS/大容量バッテリーを併用。雨天時は接続部を養生。
- ・通信: PC、リーダーとHUB間のLANは抜け止め・ケーブル保護を実施。
- ・試験: 事前にタグ通過テスト（低速/通常/集団）を実施し、読取率を確認。
- ・安全: 走路内に機材が突出しない。ケーブルは養生テープで固定し躓き防止。

09 一般個人レースイメージ

本図は、一般的な個人レースにおける計測パターンの一例を示しています。

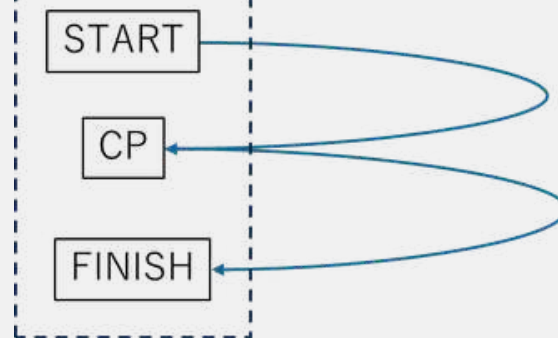
スタート・チェックポイント（CP）・フィニッシュをそれぞれ別の計測機で管理する構成や、1台の計測機で一括管理する構成など、競技内容やコース設計に応じた柔軟な運用が可能です。

また、スタート計測を行わない運用にも対応しており、イベントの形式に合わせた最適な計測方法を選択いただけます。

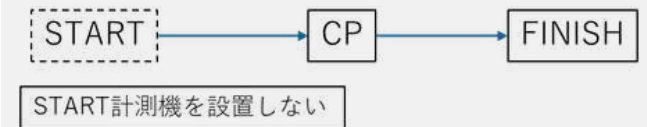
パターン1



パターン2



パターン3



START、CP、FINISHが異なる計測機

スタート、チェックポイント（CP）、フィニッシュそれぞれに専用の計測機を設置する構成です。

各地点で正確な通過記録を取得できるため、周回管理や中間順位の把握など、詳細なレース分析や運営に適しています。

START・CP・FINISHが同じ計測機

1台の計測機を複数地点で使い回す、または同一機器で一括管理する構成です。

機材を最小限に抑えながら運用できるため、小規模イベントやシンプルなレースに適した効率的な計測方法です。

START計測なし

スタート地点での計測を行わず、フィニッシュや必要なポイントのみで記録を取得する構成です。

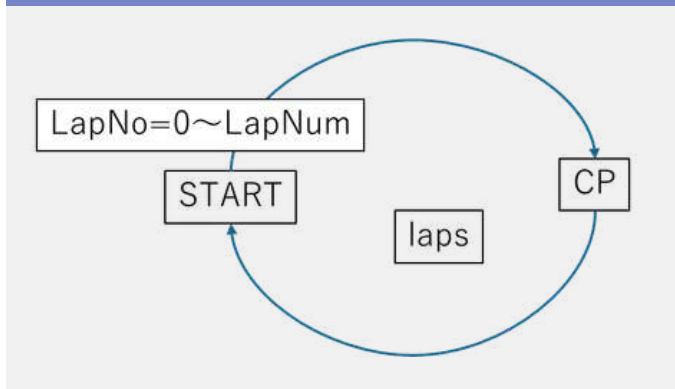
一斉スタートのイベントや簡易計測に適しており、設営や運用の負担を軽減しながら大会を実施できます。

10 周回りイメージ

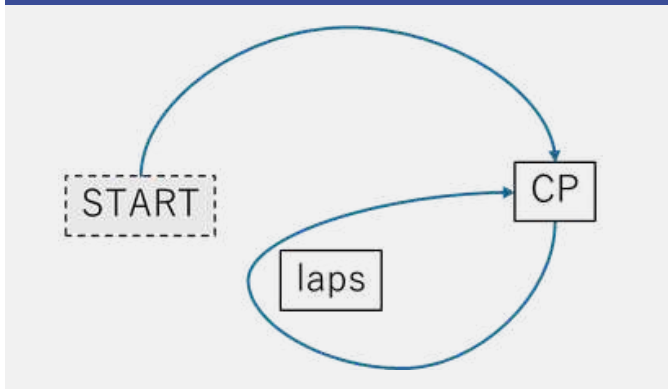
本図は、周回コースにおける計測パターンの一例を示しています。

周回数の管理や通過記録の取得を目的として、コース設計や運営体制に応じた計測機の配置が可能です。シンプルな構成から詳細な周回管理まで、イベントの規模や目的に応じた柔軟な運用に対応します。

パターン1



パターン2



周回数=LapNum → FINISH

周回ごとに計測を行う構成

周回ポイントに計測機を設置し、選手が通過するたびに記録を取得する構成です。

周回数やラップタイムを正確に把握できるため、順位管理やリアルタイム表示など、詳細なレース運営に適しています。

フィニッシュ中心で管理する構成

主にフィニッシュ地点で計測を行い、最終結果を管理するシンプルな構成です。

機材や運用負担を抑えながら実施できるため、小規模イベントや簡易的な周回レースに適しています。

11 リレーイメージ

本図は、リレー形式のレースにおける計測パターンの一例を示しています。

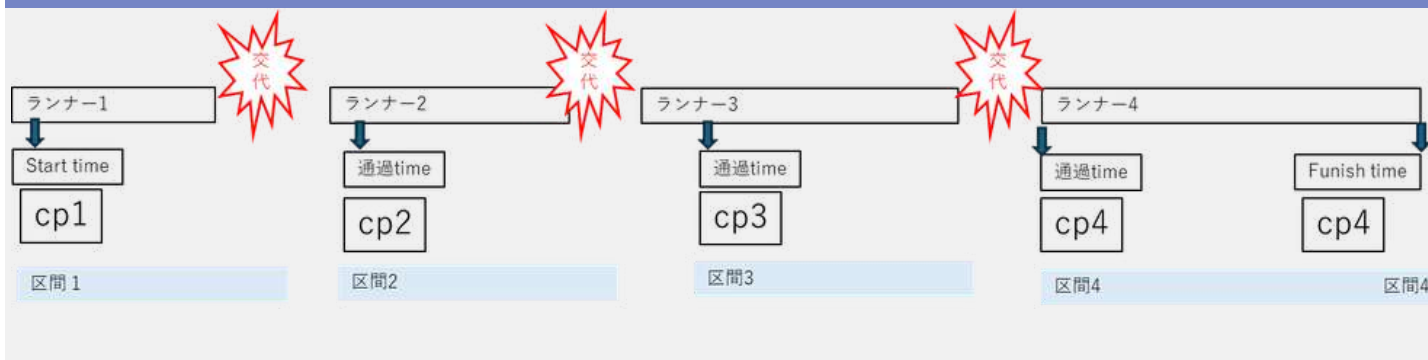
区間ごとの走者交代やチーム単位での記録管理に対応し、競技形式や運営方法に応じた柔軟な計測が可能です。

個人記録とチーム成績の両方を正確に管理し、スムーズな大会運営を実現します。

パターン1

次走者が計測マットを通過した瞬間をもって交代成立とみなす方式。

その通過タイムが「次走者の区間スタート」となり、前走者の区間ゴールはその直前の通過で区切ります



後ろマッチ (後走者基準)

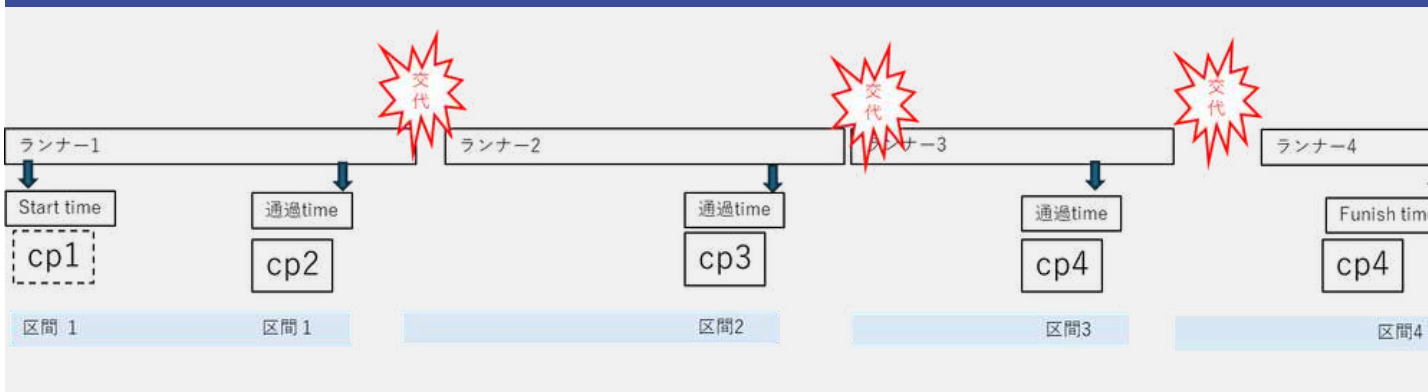
各中継地点に計測機を設置し、走者交代のタイミングで記録を取得する構成です。

区間ごとのタイムや通過状況を正確に把握できるため、詳細な成績管理やリアルタイムでの状況把握に適しています。

パターン2

前走者が計測マットを通過した瞬間をもって交代成立とみなす方式。

その通過タイムが「前走者の区間ゴール」であると同時に「次走者の区間スタート」にも使われます。



前マッチ (前走者基準)

主に最終走者のフィニッシュ時に計測を行い、チームの総合記録を管理するシンプルな構成です。

運用や機材を抑えながら実施できるため、小規模イベントや簡易的なリレー形式に適しています。

よく頂くご質問について

Q スパイク使用（ボールペンの先のようなもの）は可能か？

A マット内部の導線が切れてしまう可能性があるため、恐れ入りますが、スパイクでの計測は不可とさせていただきます。

Q 計測はされているが、データが届かないということはあるか？

A 計測が行われていれば、必ずデータは取得します。

Q 機器に対して、暑さ対策や雨対策は必要か？

A 計測機器に対しては、対策をお願いしています。マットは防水処置を行っているため対策頂く必要はありません。

Q 同日に複数のレースを開催する場合の計測について

A 各レース毎の情報をシステムに入力しています。レース管理画面に各レースのSTARTボタンがありますので、それを押下してください。

ご覧いただき、誠にありがとうございます。

Race Timeboxにご興味をお持ちいただけると幸いです。
何かご質問やご意見がございましたら、いつでもお気軽にお問い合わせください。

株式会社eビジネスソリューション（EBS）

〒135-0043 東京都江東区塩浜二丁目13-9

✉ timebox@ebskk.com